



国際交流活動2023年

(国際展開担当理事) 中野 秀雄

2023年1月より12月までに行われた国際交流活動について報告する。

■**生物学アジア若手賞** 本年度は20回目となり、マレーシア（現アブダビ在住）のPau-Loke Show博士（University of Nottingham Malaysia/Khalifa University）と台湾のChun-Yen Chen博士（National Cheng Kung University）に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Recovery of valuable bioactive compounds from renewable resources towards a sustainable circular bioeconomy: A solution to global issues」と「Engineering strategies for enhancing microalgae lipid production using effluents of coke-making wastewater」で、受賞講演は大会2日目の午後に行われた。Show博士はPutra Malaysia大学で学士と博士学位、Nottingham大学でPGCHEを取得した後、Nottingham大学Malaysiaで准教授を経て2022年より教授に昇進、また2023年よりUAEのKhalifa大学の教授も兼職している。バイオプロセス工学、分離精製工学、藻類バイオリファイナー工学を専門とし、Bioresource TechnologyやJBB誌（代表的論文10報のうち5報）を含め731編の原著論文と総説などを発表している。同氏の今後の研究における益々のご発展と当学会との連携を期待したい。Chen博士は台湾の国立成功大学で博士学位を取得後、博士研究員を経て、研究フェロー、さらには国立成功大学循環エコノミー研究所ディレクターを兼務している。主に生物化学工学・環境生物工学を専門とし、JBB論文2報を含む110報の論文を発表しているだけでなく、微細藻類を利用したCO₂固定化バイオプロセスの実用化にも成功している。日本のグループとの共著論文も複数あり、今後も我が国の研究者との交流・共同研究が期待できる。



Prof. Pau-Loke Show



Dr. Chun-Yen Chen

■**生物学アジア若手研究奨励賞 (DaSilva Award)** 第12回目の本年度はシンガポールのKit Wayne Chew博士（Nanyang Technological University, NTU）に授与された。受賞対象となった研究題目は、「Engineering strategies for enhancing microalgae lipid production using effluents of coke-making wastewater」であった。Chew博士は、Nottingham大学Malaysiaで学士と博士学位を取得後、同大学での研究員を経て、現在NTUでAssistant Professorを務めている。同氏の今後の研究における益々のご発展とJBB誌への貢献を期待したい。

■**Korean Society for Biotechnology and Bioengineering (KSBB) と Biotechnology and Biochemical Engineering Society of Taiwan (BEST) との人的交流** 2023年4月12日（水）～14日（金）に済州国際コンベンションセンターで開催されたKSBB春季大会では、2022年度学会賞受賞者である近藤昭彦教授（生物学賞・神戸大）と上平正道教授（生物学功績賞・九大）、また、10月4日（水）～6日（金）に釜山国際コンベンションセンターで開催されたKSBB秋季大会では、本年度受賞者である高木博史先生（生物学賞・奈良先端大）、青柳秀紀先生（生物学功績賞・筑波大）、梅津光央先生（国際展開・東北大）が講演を行った。7月11日（火）～14日（金）にNational Cheng Kung Universityで開催された2023 BEST Joint YABEC International Symposiumでは、Sastia Prama Putri先生 [生物学奨励賞（斎藤賞）・阪大] と大政健史先生（阪大）が招待講演を行った。

第75回日本生物工学会大会2日目のKSBB-BEST-SBJジョイントシンポジウム、「第一部：酵素・微生物工学の新潮流（New Trends in Enzyme and Microbial Technology）」および「第二部：動物細胞工学の最先端研究（Current Advances in Animal Cell Technology）」では、KSBBから5題、BESTから2題の招待講演が行われた。KSBBからの招待講演者は、Assist. Prof. Hee Ho Park（Hanyang University）、Prof. Jong Youn Baik（Inha University）、Assoc. Professor Soo-Jin Yeom（Chonnam National University）、Assoc. Professor Chang Sup Kim（Yeungnam



第75回日本生物工学会大会開会式でのKSBB会長挨拶

University), Assoc. Professor SangWoo Seo (Seoul National University) で, BESTからの招待講演者は, Prof. I-Son Ng (National Cheng Kung University) と Assoc. Prof. Chao-Ling Yao (National Cheng Kung University) であった.

■ **KSBBとBESTとの交流会議** 2023年9月21日(木)にオンラインで, KSBBのSang Yup Lee教授(会長, KAIST), Jeong-Geol Na教授(庶務, Sogang University), Chulhwan Park教授(会計, Kwangwoon University), Jonghoon Choi教授(2023 & 2024国際交流, Chung-Ang University), Dong Soo Hwang教授(2023&2024国際交流, POSTECH), Hyun Ho Lee教授(2024庶務, Myongji University), Sung Kuk Lee教授(2024国際交流, Ulsan National Institute of Science and Technology), Yoosoo Yang博士(2024国際交流, Korea Institute of Science and Technology), Jong Youn Baik教授(2024国際交流, Inha University)を交えて交流会議を開いた. 本会からは, 清水副会長, 梅津(国際展開)理事, 尾高(国際展開)理事, 井藤(英文誌)理事と筆者が出席した. 交流会議では第76回日本生物工学会大会(2024)にKSBBより5名招待し, KSBB, BEST, SBJの3学会合同シンポジウムを開催することに関して同意を得た. 2023年9月28日(木)には, BESTのJohn Chi-Wei Lan教授(副会長, Yuan Ze University)との話合いの場が持たれ, 3学会合同シンポジウムの開催, 来年も2名の招待講演者をそれぞれの年次大会に派遣することが決まった.

■ **ASEANのバイオテクノロジー関連学会との交流** 創立100周年記念大会終了後の2022年10月21日(金)のジョイントシンポジウム『Joint SBJ Meeting with Indonesia, Philippines, and Thailand』開催にご協力いただいたインドネシア, タイ, フィリピンのバイオテクノロジー関連学会と個別に交渉をすすめ, Thai Society for Biotechnology (TSB), Philippine Society for Microbiology, Inc. (PSM), Indonesian Society for Microbiology (ISM), Indonesian Biotechnology Consortium (IBC)とMOUを締結した. 会員価格での年次大会への参加資格付与, 招待講演者の派遣等, 年次大会を通して両学会および会員間の交流を深めていくことになった. TSBとのMOUに基づき, 2023年11月26日(火)~29日(金)にKhao Yai国立公園で開催されたTSB2023で熊田陽一先生(京都工芸繊維大学)が招待講演を行った.



第75回日本生物工学会大会の招待講演者の歓迎会にて(敬称略). 前列左から, Dong Soo Hwang, I-Son Ng, John Chi-Wei Lan, 秦会長, Jasmina Damnjanović, 加藤, 後列左から, 梅津, 清水副会長, Chang Sup Kim, Chao-Ling Yao, SangWoo Seo, Soo-Jin Yeom, 筆者, 福崎前会長, 竹山, 本田, 藤山, 松原, Jong Youn Baik, 前川, Hee Ho Park.